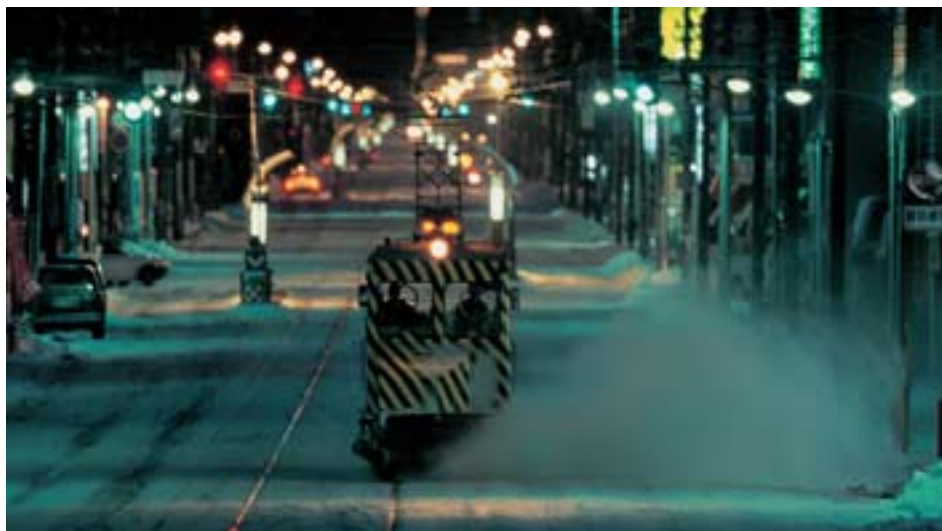




函館のハイカラ号



札幌の除雪風景

Data

【函館】

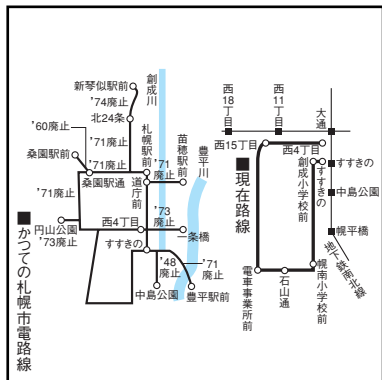
開通：大正2年（北海道で最初の路面電車が誕生。東雲町～湯の川間5.83Km、車輛数5両、区内3銭）

営業：10.9km（道路事情や乗客の変化などにより路線を縮小し、平成5年4月から現在の2系統に。現在は輸送人員約2万人/日、保有車輛数35両。全盛期の昭和39年頃には営業キロ17.9km、輸送人員約14万人/日、保有車両数87両）

【札幌】

開通：大正7年（3路線約5.3Km、車両数24両、片道6銭）

営業：8.465km（道路事情の変化や地下鉄開通などにより路線を縮小し、昭和49年5月から現在の1系統に。現在は輸送人員約2.3万人/日、保有車両数30両。全盛期の昭和40年頃には営業キロ25Km、輸送人員約27万8千人/日、保有車両数154両）



●お問合せ先

函館市交通局管理運輸部 Tel.0138-32-1730
札幌市交通局電車事業所 Tel.011-551-3944

戦後の札幌市の膨張に応じて63（昭和38）年に鉄北線が北27条から麻生まで、翌年には新琴似まで延長した。

ピーク時の64年には7系統9路線（合計約25キロ）、乗客は1日約28万人。ラッシュ対策として、2両編成の「親子電車」や、急行運転を導入。市電は通勤通学客のほか初詣で客や花見客、札幌ま

つりの行楽客でも超満員だった。

しかし、自動車の普及や地下鉄の開業で路線は次々と廃止。74年に西4丁目～すすきのの1路線のみとなった。

縮小の流れのなかでも、皇太子御成婚（93年）を記念して華やかに飾り付けた花電車をはじめ、ササラ電車に電球500個を取り付けたイルミネーション電車、車両内外を飾ったクリスマス電車、ハートや天使の形形で車内を飾るバレンタイン電車などが市民の心を明るくしている。

同市総合交通対策調査審議会は昨年4月、路線のループ化（環状型）、地下鉄との乗り継ぎ施設の整備、優先信号システムの導入、低床車導入などを提言した。しかし、市電は今年度、2億8500万円の赤字の見込み。同市が策定した今年度から5カ年の「交通事業改革プラン」でも、乗客の減少と施設の老朽化で経営は急速に悪化すると予想している。

市電を街づくりに生かそうと90年、札幌市中央区の連合町内会、商店街などが「市電の会」を発足させた。同会は91年から00年まで、主要交差点や電停を大型プランターの花で飾り、乗客や市民を楽しませた。92年、ドイツの「ミュンヘン市電友の会」と姉妹提携した。

今年は、市電フェスティバルで体験運転や市電との綱引きを行い、幼稚園児と小学生を対象にした「市電の絵」コンクールも開催する。中央区のホームページに今年4月「市電沿線ぐるっと探検」が新設され、市電運転席からの風景や、電停周囲の景色を動画で見せている。「市電倶楽部」という情報ページもある。

交通資料館（南区真駒内東町1）には、過去の路面電車や除雪車、昔の車掌の制服、乗車券などが展示され、車両は乗ったり触ったりできる。